カトリック
福岡教区報

ヨゼフ アベイヤ司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行人　カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-4059
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　1部70円

2月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【教皇の意向】　終末期医療

【日本の教会】　日本で働く外国人労働者

見えてくる課題
教区宣教司牧方針　アンケートの結果から
福岡教区長　ヨゼフ・アベイヤ司教

カテドラルのクリスマスミサで子どもたちへ
アベイヤ・サンタからお菓子のプレゼント

昨年10月にお願いした「福岡教区宣教司牧方針」のアンケートの回答が届きました。多くの信徒、修道者、司祭のご協力に感謝いたします。回答の集計や寄せられた意見は、既に教区のホームページで発表されています。是非皆さんに見ていただきたいと思います。

1200枚配布したアンケート用紙に対して632の回答が得られました。個人で回答したものが多いですが、グループや共同体としての回答もあります。福岡教区の現状が反映されてか、50代から70代の回答者が圧倒的に多いです。回答の裏には様々な体験、希望、悩み、戸惑い、不満等が感じられます。「ああ、この現実にもっと目を向けるべきだな」、「この状況にある兄弟姉妹を見過ごしていたのではないか」、「本当に皆がそれぞれの場で信仰を生き証ししようとしているのだ」等と私は感じました。回答の中に、これからの歩みのための貴重な指摘と提案があります。

「活動に参加したいがどうすればいいかよく分からない」、「自分でもいいだろうか」と戸惑う人がいるようです。また、活動に参加したくても様々な理由で引け目を感じている人もいます。「活動」ということばにこだわる必要はないと思います。大事なのは「参加」です。祈りによって教会の歩みを支えている人々の存在はとても大切です。

「宣教司牧方針」の意味をもっと丁寧に説明する必要を感じます。宣教司牧方針は、信仰を深めるための道具であり、教会の活動を活性化させるための助けであることを強調しなければなりません。宣教司牧方針は、みことばから出発して、今までの教会の歩みを受け継いで、新しい状況の中でイエスに従って行く道を探るためのものです。幸いなことに、宣教司牧方針がそのための助けになったと言っている人は少なくありません。

アンケートは宣教司牧方針の三つの柱に沿ってつくられていました。

【出向いていく教会】を目指す中で、その動きを支える霊性が必要であると感じている人が多くいます。毎日の祈りを大切にし、聖書の学びと分かち合いのグループに参加していると表明している人は多いです。「新しいグループを作った」、「コロナウイルスの感染によって中止されていた活動をもう一度開始した」と答える人やグループがいます。

地域社会とのつながりを大事にしている例を紹介され、「教会に人を招いた」と言っている人がいます。カトリック事業（教育、医療等）の大切さも感じられます。

信仰生活と社会の現実との結びつきを意識している人は多くいます。ボランティア活動、社会問題に取り組んでいるグループへの参加、平和旬間の実践、炊き出し等の例が挙げられています。社会活動と信仰の結びつきを深めたいという希望が表れています。とても大切なことです。

【教会における交わりを深めていく】ために、様々な試みが紹介されています。教会共同体から遠ざかった兄弟姉妹とのつながりを取り戻すことに努めている信徒の努力が見えます。信徒、修道者、司祭のそれぞれの召命と使命をより深く認識し、お互いに支え合って協力する必要性が感じられます。信徒の方から提案されていることに対して司祭の理解や励ましが求められています。

【未来に開かれた教会】の課題について、青年たちからと思われる回答を読みながら希望を感じます。今までやって来たことがよかったと表明し、これからの活動に対する意欲を感じます。「教会に青年がいない」という人は少なくないですが、青少年の存在に目と心を向けて、励まして欲しいと思います。外国から来ている信徒がいることに対しては、喜びが表明されると同時に、福岡教区の歩みに、より積極的に入って欲しいという声があります。大事な課題です。

その他にも貴重な意見がたくさん寄せられています。

福岡教区は歩み続けます。教会が高齢化しているとよく言われますが、アンケートで誰かが書いたように、それがネガティブ（否定的）に取られると困ります。その方々の存在は大切ですし、その年齢にあった活動もなさっています。大事なのは、「ともに歩む」ことです。お互いに学ぶことがたくさんあるはずです。

ヨゼフ・アベイヤ

復興支援
2024年 能登半島地震

2024年1月1日に発生し、北陸地方に甚大な被害をもたらした能登半島地震は、その被害の概要や復興への道筋も明確にできないまま、被災者の方々は辛く過酷な日々を送っていらっしゃいます。

復活しともにいてくださるイエスを信じ、イエスに倣うものとして生きるキリスト者。今こそ、キリストを証しする使命を果たすことができますように。

被害の大きかった石川県は名古屋教区です。

名古屋教区からの被害の報告や支援については、右記QRコードからご確認ください。

能登半島地震　被災者のための祈り

祈りを通して被災地とつながっていきましょう。下記QRコードからご覧いただけます。

祈りの動画　祈り文

福岡教区のアプリができました。スマートフォンで教区情報を簡単に得ることができます。詳細は教区ホームページでご確認ください。

時の話題
福岡ホスピスの会

結成以来27年間、福岡ホスピスの会は、がん患者を中心に、当初からの「緩和ケア病棟」と、8年前に開設した「がん哲学外来ぬくみカフェ」のボランティア活動を行っています。

コロナ禍で病院訪問が休止となる中、「ぬくみカフェ」を休んだのは2回だけで、対面カフェだけでなくリモートカフェも取り入れ、この8年で延べ参加者数2000人余り、字のごとく温もりのある傾聴・対話を重ねてきました。カトリックの傘下にはないですが、ごミサの最後の派遣の祈り「行きましょう、主の平和のうちに」は、教会から社会に出向く私の原動力です。

「ぬくみカフェ」は、人生の様々な十字架の分かち合いの場でもあります。当事者・ご遺族・その友人・その他の病気など、内容は多岐にわたります。がん!?なぜ??懸命に頑張ってきたのに…!!人生に行き詰まり八方ふさがりの時にカフェに参加し、涙で話すことは心から自分を解き放つこと。その繰り返しの中でTo do（行動・見える世界）からTo be（心・見えない世界）の大切さに気付き、健康な時よりも生きる強さを見つける方もおられます。

極限の精神状態の中でがん難民となりながらも、人間としての尊厳を保ち、自分の使命に気付き、周りの方々に配慮する姿には感動すら覚えます。これが本当のキャンサーギフト（がんになり、得たもの）でしょう。

病気でも心まで病人ではない、がんサバイバー（がんと共に生きる）としての雄心。それは寄り添っている私たちへの大きな勇気ともなります。先頭を走るのはイエス様。「一寸先は光」を信じ、今日もたかがボランティア、されどボランティアでしょうか。

西新教会　柴田　須磨子

教区創立100周年に向け
活動を開始

周知のとおり、福岡教区は2027年に設立100周年を迎える。その祝い方について、昨年から教区宣教司牧評議会の中で話し合われ、多様なアイデアが出されていたところだが、この度、記念事業の方向性を示し、準備の推進や調整を担うグループとして、100周年委員会が発足した。

今後のスケジュールと取り組みが具体的に検討され、検討結果は上記評議会で提案・審議されることになる。現時点では、以下の5つの柱が考えられている。◆典礼（ミサや記念の祈り）◆記念誌の発行◆行事（フェスティバルや教区内の巡礼）◆広報（教会外へのPR含む）◆信徒養成。

ところで、教区設立100周年を記念することにはどのような意味があるのか、自分なりに考えてみた。第一には、過去をふりかえり感謝すること。百年続いてきたということは、信仰を伝え、毎週集ってミサを捧げ、社会に派遣されていく生活を、先人たちがこの地で続けてきたということだ。神がともにおられたしるしとして賛美したい。第二に、教区の今を知ること。信仰の仲間にどんな人がいるのか、数字ではなく顔を見て知る機会になれば素敵だと思う。私自身、委員になったのを機に、福岡教区がいかに多様性に満ちているかを発見しつつある。第三に、次の百年を思い巡らすこと。信仰を証しする信徒の交わりとして、これから何を大切にしていきたいかが、一人ひとりの中に浮かび上がってくるような恵みを願っている。

報告＝西新教会　安藤智子

みちくさ

降誕祭日中のミサでの出来事。ミサが始まる前に、冬休みの預かり保育に来ていた子どもたちにミサに参加してもらっていいですか、と先生から問い合わせがあった。十数人の年中と年長の園児が参加した。祭壇のいちばん近くにいた子どもたちに説教の時に尋ねた。イエスさまが生まれたところはどこですか▼クリスマス会で聖劇を演じたり、見たりしていた子どもたちだから、みんなそれがベツレヘムだと知っていたはず。数人の子が手を挙げた。ベツレヘム、とささやく声も聞こえる。一人の子を指した。五歳の子が答えた。今、戦争をしているところです。一瞬、聖堂内になんともいえない沈黙。子どもたちには驚いた様子はない▼降誕祭を迎える前に、子どもたちと街頭募金に出かけた。出かける前に、聖堂内のプレゼピオ（家畜小屋の模型）の前に集まった。飼い葉桶に寝かされているかわいい赤ちゃんの像を見ながら、気持ちいいのかな、本当はどうだったと思うと尋ねた。世界中のあちこちで子どもたちが泣いてる。子どもたちだけでなく、大人たちも。戦争や自然災害や飢餓で。イエスさまはそこで生まれ、泣き叫んでいる。助けて！と▼街の交差点で募金を呼びかけた。子どもたちの声がだんだん大きくなっていく。「ガザの子どもたちを助けてください！」一時間での募金額はおそらく今までで最高。世界の、そして教会の未来をつくる子どもたちに、もっと信頼していいのではないか。一月の最終日曜日は「世界こども助け合いの日」だった。（Y）

福岡教区5地区からそれぞれのクリスマス
「平和の君」主イエスのご降誕の喜びに包まれて

熊本・八代教会

八代教会では、アッシジの聖フランシスコの壁画を思い起させるようなプレゼピオ（馬小屋）によって、イエス様の降誕を祝うことができました。聖堂前の広場では、闇夜の中に火が焚かれ、小雨降る寒空の中で温まることができました。

コロナ禍前は、白百合高校の合唱部・吹奏楽部による主への賛美が行われていましたが、今年は、ミサ前に帯山教会の横山洋子さんと八代教会の井口恵子さんによるミニコンサートが開催されました。主任のオカロール神父様は、熊本南部地区の共同体同士の交流を促進されています。人吉教会からも犬童允貴・愛さんご夫妻が来てくださり、ミサ後、心を込めて作った農産物の販売も行われました。そして、八代教会によるプレゼント配布、火を囲んでのお菓子と温かい飲み物で、参加した大勢が心も体も霊的にも満たされた「聖夜」を過ごすことができました。　報告＝下村淑子

※八代教会・美化委員会広報誌をご紹介します。

内陣に大きく飾られたプレゼピオ

北九州・湯川教会

12月24日16時より教会学校の子どもたちは、聖堂で主任のイム・ドンビン神父様の話を聞きました。「神様は目には見えませんが、私たちはイエス様を通して神様を感じることができます」。それから「主の祈り」と「アヴェマリアの祈り」を唱え、世界の平和のために祈りました。その後、ゆるしの秘蹟を受ける子どもたちと、初聖体の子どもたちとに分かれて、イエス様のご降誕の聖書を読み、ゆるしの秘蹟を受けて心の準備をしました。

それから夕食を共にし、くじ引きやジャンケンゲームなどを楽しみました。19時からの主の降誕夜半ミサでは、聖書朗読・奉納は子どもたちが担当しました。中には「とても楽しかったので来年は友だちも一緒に来られたらいいな」との声もあり、来年は友だちも一緒に参加できるよう検討できればと思います。

世界中で災害や紛争が起き、多くの命が失われています。日本でもコロナやインフルエンザが流行する中、皆でクリスマス会とミサに無事に与ることができ感謝です。世界の平和と、子どもたちがイエス様とともに、神様の祝福のうちに歩み続けることができますように。

報告＝教会学校リーダー　谷﨑京子

プレゼピオの前で記念の集合写真

佐賀・鳥栖教会

12月24日（日）・25日（月）、鳥栖教会（主任・川上惣一神父）も無事に降誕祭を迎えることができました。コロナ感染症5類移行に伴い、参加制限無しでの降誕祭は実に4年振りで、普段の1.5倍、60人近い方々がミサに与られました。

待降節第1主日から飾り付け等の準備を重ね、4本のローソクの灯（あか）りが1本増える毎に気分が高揚し、聖堂に配された馬小屋を見て主の御降誕を待ち望む姿を目にすると微笑ましくもあります。飾り付けが終わると写真を撮ったり談笑したり、中には「今年の飾り付けが一番上手に出来ている！」と毎年自画自賛されておられる方も。それでも降誕祭を楽しみにして教会全員で協力し準備できることの喜びは一入（ひとしお）です。

一方、現在戦禍や災禍に巻き込まれている国や地域の人々の苦しみや悲しみを思うと祈らずにはいられません。一日も早く安息の日々が訪れる様、私たち鳥栖教会は祈り続けたいと思います。

報告＝川島　健二

主の降誕に喜びと感謝の祈りを捧げて

筑後・今村教会

12月23日（土）、大刀洗町ドリームセンターにて一般向けのクリスマスイベント「今村天主堂 応援イベント第3弾クリスマス編―未来の今へ―次の100年につなぐ」を開催。耐震補強工事のため閉鎖中の今村天主堂は、莫大な工事費に加え、約10年後の完成まで人々の心をどう繋ぐかが課題となっています。

クリスマスを通して来場者の心に今村天主堂が蘇るような演出を行いました。天主堂で以前使用していたステンドグラスの窓を並べ、照明で飾った〝光の道〟と〝馬小屋の御子〟の前を通って入場し、懐かしい鐘の音でイベントが始まりました。舞台には5組の出演者（オカリナ演奏、タップダンス、弦楽合奏団、歌、聖劇・イエス様のご誕生）、そして墨絵アーティストによるライブペインティングが披露され大いに盛り上がりました。ご来場の皆様より献金もいただき今村天主堂保存会へ全額寄付させていただきました。ご賛同・ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。そして、未来の今へ、次の百年に繋ぐため今後とも応援よろしくお願いします。

報告＝平田　ゆかり

子どもたちによる聖劇に大きな歓声が上がる

福岡・大名町教会

主のご降誕を祝う12月24日（日）の夜半ミサに約1030人、25日（月）のミサに約340人が与った。外はあいにくの雨。毎年、大聖堂に続く外階段で教会学校の子どもたちが行うクリスマスキャロルは大聖堂で行われたが、聖堂内に響き渡る子どもたちの歌声に一同笑顔で耳を傾けた。

司教は説教で、今のパレスチナの状況に触れ、「聖ヨハネ・パウロ2世教皇が訪日した際、広島で『戦争は人間の仕業。戦争は死である』と言われた。憎しみは愛でしかいやせない。今年のベツレヘムでイエス様は瓦礫の上に置かれている。天使の言葉を非常に恐れた羊飼いたちが、出向いて行き幼子イエスに出会うと神を賛美しながら帰っていったように、私たちもイエスに出会うために馬小屋に入り、平和を愛し、平和を作り上げる人間に変えられなければならない」と力強く語った。

ミサ後、久々に会った人との再会の喜びや、多くの旅行者、外国籍の人々の姿もあり、平和を祈る静寂とイエス様のご降誕の喜びに満ちたときであった。　報告＝谷口　純子

教会学校子どもたちのクリスマスキャロル練習以上に大きな声を聖堂に響かせて

ベトナム語ミサ

約190人が集ってミサを捧げ、救い主の誕生を祝い、毎日の神さまのお恵みに感謝しました。そして、帰りたくてもなかなか帰れない母国にいる家族や大切な人のことを思い、幸せと世界の平和を祈りました。

報告＝ファン・バン・チュエン神父

英語ミサ

約170人が、パウロ・マスカルナス神父（大楠教会主任）司式のミサに与り、みんなで平和を祈りました。

最後に韓国のバグパイプ奏者が「アメイジング・グレイス」を演奏し、ウクライナ出身の人が、祈りと支援してくれた人への感謝の言葉を述べました。報告＝アンナ・ルー

◆ 福岡教区宣教司牧方針を受けて ◆

2022年4月、福岡教区の「宣教司牧方針」が発表されました。教区報では、「宣教司牧方針」を受け、各小教区や団体で取り組んでいること、心がけていることなどについて、具体的な活動を紹介しています。「宣教司牧方針」は右記QRコードからご覧になれます。

教区宣教・養成委員会信徒養成部門企画
福岡地区信徒養成プログラム

終了証授与式の様子

2022年秋から始まった福岡地区信徒養成プログラムは、「宣教する弟子として社会の中で生きる信徒」の養成を目的とし、大濠カトリック会館で全9回の日程を重ねてきました。毎回午前9時半から午後5時半まで、祈りと学び、レクリエーション、そしてミサからなる一日を過ごしながら、みことばとは？ 宣教とは？ 典礼とは？ 等を問い直し、黙想と分かち合いによって深めました。そして昨年11月、ついに最終回を迎え、11人の参加者にアベイヤ司教から修了証が授与されました。

プログラムの運営は、司祭1人と信徒2人からなるチームが担当しました。その一人として参加者たちに伴走するなかで、信仰の成長において「ともに歩む」は欠かせないことを実感しました。成長の望みを持って集まった者同士だからでしょうか、参加者はほとんどが初対面の間柄ながら、早い段階で互いに支え合い、励まし合う関係を築いていました。自己との対話、他者との対話、神との対話がダイナミックに深まる過程を見せていただきました。安心感とワクワク感の両方があったのは、聖霊の働きのしるしだと感謝しています。以下は参加者の声です。

◆皆の共通の悩みは、聖書に書かれている真実の言葉や愛は分かっているが、そういう風に生きていけない難しさだったと思う。社会の中で信仰生活を生かしていくために、分かち合い、学び合っていくこと、継続することが大切だと思った。
◆道を示して先にいる、模範的なイエス様に憧れて歩んで来た。そのようなイエス像が、隣にいる・対話するイエス像に変わった。嬉しい！
◆自分の中に多くの先入観と「変えたい、変わりたい気持ち」があったのだと自覚。「キリストを着る者となった」の意味がはっきりとしてからは、この私だからふさわしいと選んでいただいたお恵みを嬉しく携えて、与えられた場所と方法で、福音を伝えながら生きていきたい。
◆今後も日々の出来事を丁寧に振り返り、自分に求められていることやできることに気付きたい。私が御心にかなう生活ができれば、自然と周囲に喜びが伝えられると思う。

報告＝養成プログラムスタッフ

サンパウロ
福岡宣教センター
営業時間：
10:00～18:00
定休日：日曜日・祝日
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26
tel. 092-721-2032 ／fax. 092-739-3930
E-mail: fukuoka@sanpaolo.or.jp
レジナ アポストロールム

不動産全般／売買・賃貸・管理
なんでもお問い合わせください
㈱ジャパン・スマイルか
代表取締役　マルガリタ・マリア 吉田由利子
〒810-0044 福岡市中央区六本松4丁目9番4号
TEL 092－761－8800
http://www.iruka-japan.com/

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811－7265

別れ・出逢い・旅立ち
草〔SOU-EN〕苑
カトリックのご葬儀
互助会制度もご利用できます。
木下株式会社
TEL 092－526－5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

知りたい！ 福岡教区内の修道会 宣教会⑳

福岡教区には現在30の修道会・宣教会から司祭・修道士・修道女が派遣され、それぞれのカリスマで働いておられます。
昨春より紹介している、その修道会や宣教会。第20回は、カノッサ修道女会です。

カノッサ修道女会

1954年ごろの大牟田のシスターたち

カノッサ修道女会の創立者聖マダレナ・カノッサは、1774年3月、イタリアのヴェロナに生まれた。当時はナポレオンの占領下にあり、社会的に荒廃していた。マダレナは、少女たちの将来のために教育の必要性を感じ、数名の婦人たちと小さな学校を始めた。病院訪問や教会での要理教育も手伝っていた。1808年5月8日には「愛徳の娘貧しい人のはしため修道会」を創立し、イタリア各地に広めた。
「ああ、イエズス・キリストの御名がいまだ知られていない地の果てまでも行くことが出来れば」という創立者の海外宣教への望みは、1860年に実現した。最初の宣教女6人が香港を目指して出発した。そして、香港から中国にも入り、その後、インド、アジア諸国、オーストラリア、ヨーロッパ諸国、アメリカ大陸、アフリカ大陸へと広げられた。
日本には、1951年5月、当時のドミニコ深堀仙右衛門司教様の依頼により、女子教育のために、4人のシスターが来日した。言葉も文化もよく分からなかったが、沢山の方々の支えにより、翌1952年4月、大牟田市に明光学園中学校・高等学校を開校した。その後、東京、鹿児島、奈良、水俣、名古屋に修道院を開設した。
今年は創立者生誕250年目にあたる。私たちは創立者の言う「神のみ。神の栄光と人々の救い」を心に刻み、現代社会の中で生きるよう、日々の歩みを捧げている。

大牟田修道院　院長　Sr.奥薗 惠美子

第2回 手取教会 クリスマス・マーケット開催
大成功！多くの人々へ感謝のうちに

うどんを作りサービスする櫻井神父

12月23日（土）から3日間、熊本中心街のカトリック手取教会で中高生会によるクリスマス・マーケットを開催し大成功を収めました。先ずはじめに、ご協力いただいたすべての方に感謝申し上げます。特に櫻井尚明神父様（手取教会主任）にはご多忙の中、中高生に全力で向き合っていただき感謝しています。学生時代にこんなにも素敵な神父様に出会えたことは、私の今後の人生に大きな実りあるものだとマーケット開催期間中に特に思いました。
秋のバザーでの出店やクリスマス・マーケットは中高生だけではなく大人の方の力のおかげでできたところが大きいです。今の教会は、教会維持費減少等10～20年先の未来が見えづらい状況だと思います。だからこそ、このクリスマス・マーケットが、普段来られない信者さんが教会に来るきっかけになり、また一般の方が教会に興味を持てるきっかけになればいいと思います。

報告＝金田孝文

二度目の開催となる今回は、ヨゼフ・アベイヤ司教様をご招待すると、「中高生からのお誘いなら！」と喜んで熊本に来てくださり、「中高生の皆さんへ」とお手紙まで書いてくださいました。スタンプラリーによるくじ引きを企画したり、一般の方にお手紙を用意したり、キャラメルポップコーンを作ったり、初めてのことにたくさん挑戦しました。私が一番印象に残っていることは、門の外での声掛けで教会に入って来られた未信者の親子が二日連続で来てくださったことです。子どものクリスマスプレゼントにとメダイを購入されました。クリスマス・マーケットが福音宣教に繋がっていると肌で感じた瞬間でした。これからも、クリスマス・マーケットの趣旨を忘れることなく続けていけたらと思います。関わってくださったすべての方に感謝申し上げます。

報告＝大賀　麗

青年たちから招待状が届き
喜んで駆けつけた司教とピース！

出向いて行く教会となるために

2023年の年間テーマ「出向いて行く教会となる」に心を合わせ、各小教区では様々な取り組みが行われた。ここでは昨年末に行われた2つの取り組みを紹介する。

菊池・山鹿教会 熊本刑務所で演劇披露

12月22日（金）、主任司祭シルバノ・ダ・ロイト神父以下、有志11人にて、熊本市東区渡鹿（とろく）にある熊本刑務所を訪問した。受刑者及び刑務官の方々に一足早いクリスマス気分を味わって頂く為、トルストイ原作のクリスマス劇『靴屋のマルチン』の上演、その他フルート演奏及び合唱を披露するというものであった。
会場となった体育館には、67人の受刑者と、およそ30人の刑務官が参集。まずは、シルバノ神父の挨拶を皮切りに、クリスマス劇の開演。開演前は、出演者ほぼ全員が緊張の色を見せていたが、舞台の幕が上がると同時に表情も生き生きとして、役柄に自己を投影させるかの様に、登場人物そのものになりきり、練習の時よりもむしろ素晴らしい出来栄えを見せた。
特に、マルチン役の男性信徒は、その持てる情熱の全てを迸（ほとばし）らせるかの如く、舞台上で躍動し、転（まろ）び出るような台詞の数々は、滑らかでありながら、その一言一句が、はっきりと、熱の籠った、力強い「生きた言葉」として、まるで矢の如く観客席に向かって放たれ、観衆のみならず、傍聴していたシルバノ神父と、裏方スタッフをも魅了した。続いて、典礼聖歌「その人は幸い」を、出演者全員にて合唱。更に、主演男優が「アヴェ・マリア」を独唱。会場は万雷の拍手に包まれ、その余韻を残しつつ、女性信徒によるフルート演奏を3曲。再度、出演者全員によるカトリック聖歌「しずけき」と「もろびとこぞりて」の合唱。シルバノ神父の説教にて、締めくくった。
主演男優が、最前列に座っていた受刑者と視線が合った際に、「澄み切った綺麗な瞳をしていたのが、深く印象に残った」と語っていた通り、彼らの穢れの無い清い心を映し出すかの様に、空は晴れ渡っていた。我々を温かく迎え、丁寧にもてなして下さった刑務官と、受刑者の皆さんへ、改めてお礼を申し上げる。

山鹿教会　中野泰臣（求道者）

万雷の拍手を受ける出演者の皆さん

南粕屋教会 ウクライナ人道支援チャリティコンサート＆バザー

昨年11月26日（日）入念な準備を経て、ウクライナから福岡に避難されている8人の方を招き、コンサートとバザーが行われた。
開催に先立ち、避難者をサポートしているグローバルライフサポートセンターの山下ゆかり氏（吉塚教会所属、教区報2022年8月号掲載）から「新しい生活に落ち着きつつあるが、慣れずにウクライナの隣国に移った人も多い。日本から支援が途切れた時、不慣れな日本語での進学や就業、生活費の工面など不安が尽きない」と現状報告がなされ、あらためて支援の重要さを一同で共有した。
コンサートは聖堂で開催され、午前の部は志免吹奏楽団（2000年1月、志免東中学校吹奏楽部OBを中心に設立）により、クラシックからアニメソングや演歌など幅広い演目が演奏され聖堂が沸いた。また、午後の部は吉塚教会所属のバリトン歌手横山浩平氏により、「アヴェ・マリア」や童謡の他、「まきびと」「アデステ（きたれ友よ）」も披露され、少し早いクリスマス気分を味わった。
外では、カレーやぜんざい、手づくり佃煮など南粕屋教会自慢のメニューに加え、主任の寺浜亮司神父が兼任する吉塚教会から名物のうどんや、教会学校が活動をともにしている光丘教会からは、主任十時伸治神父が青年たちとその場で焼き上げるホットケーキなどが並んだ。また、サンパウロの書籍販売、社会福祉法人・柚子の木福祉会によるリースやお菓子、地元の八百屋店から新鮮野菜の販売などバラエティー豊かなバザー会場で、地元のTV局も取材に訪れていた。
コンサートの後にはウクライナの方たちも交え、光丘教会学校主催でTV番組さながらのクイズ大会も行われた。子どもからは「慣れないことばでも通じ合えて楽しかった。また来て欲しいです」と嬉しそうな声が聞かれ、大人も子どもも大満足の1日であった。
今回の募金と売上は216,983円で、全額、福岡に避難されているウクライナの方々のために寄付された。

日本語でのクイズ　うまく伝わるかな

※当日の様子は、下記QRコードからご覧になれます。

北九州　召命を祈る集い

私たちは毎月、司祭召命を願い、ともに集って祈りを捧げています。その集いに、11月18日（土）はアベイヤ司教様をお迎えし、ミサを共に捧げることができ大変嬉しく思います。
神は一人ひとりの心に呼びかけておられ、その愛はすべての人々にそそがれています。教会は子どもたちを必要としていますが、子どもの数は年々少なくなっています。ミサの時間に子どもが静かに過ごすことは大変ですし、御両親にとっても心苦しく思ってることでしょう。また大人としても、静かに、ゆっくりミサをと願っている方々には気の重いことでしょう。でも主が「子どもを私のそばに」と呼ばれたことを思い、私たちの思いを主に捧げ、助け合いながら共に歩むことが出来ます様にと祈ります。ミサの後の子どもたちの明るい元気な声と笑顔、この中から、司祭召命につながりますようにと願いつつ。
また、この日は9人の神父様方も共にミサを司式されました。遠く、近くから多くの方々も集まってふれあいがあり、あちらこちらから、なつかしい挨拶の声が聞かれ、心温まる時間を過すことができました。心よりお礼を申し上げます。

小倉教会　枡本 五月

北九州地区の司祭も揃って召命を祈った

BOOK 読みは専科

☆「今日」というチャンスを生きる　あなたに届くイエスの福音
レナト・フィリピーニ（著）

「カイロス」は機会とチャンスという意味。時間の経過ではなく、時間の意味とその過ごし方を表す。カイロス的な時は気づきとひらめき、成長のための促し、刺激の時間と機会。カイロス的な毎日を迎え、生きていくために、イエスの福音があなたに届く。
サンパウロ発行
税込価格1320円

社会医療法人 雪の聖母会

聖マリア病院
〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422
TEL.0942(35)3322　FAX.0942(34)3115
聖マリアヘルスケアセンター
〒830-0047 福岡県久留米市津福本町448番5
TEL.0942(35)5522　FAX.0942(34)3306
信仰や理念を共有できる医師、看護師の皆さん
ご一緒に働いてみませんか
URL：http://www.st-mary-med.or.jp/

FPC 福岡プライマリケア訪問看護ステーション
自宅で療養されている方、在宅で看取りたい方、精神障害の方など、病気について、介護方法について専門的指導や援助が必要な方はご相談ください。
費用は医療、介護保険でのご利用になります。
春日市天神山7-91　TEL&FAX 092-517-6313
福岡プライマリケア株式会社　代表：エリザベト熊谷

年間目標　互いに支え合う交わりの教会となる

― お詫びと訂正 ―

教区報１月号２面　教区司祭・新年のご挨拶（掲載漏れ）
大名町教会
ファン・バン・チュエン神父（協力司祭）
謹んでお詫びを申し上げ訂正をいたします。

レジオ・マリエ　黙想会のご案内

［日　時］２月８日（木）10 時半～15 時半
［場　所］カトリック大名町教会
［指　導］ヨゼフ・アベイヤ司教
［問合せ先］TEL 090・9568・0076 野川
※どなたでもご自由に参加ください。

第82回　福岡典礼聖歌研修会

［日　時］２月11日（日）14 時～16 時
［場　所］カトリック大楠教会
［内　容］「聖週間の典礼」
［講　師］深堀 純 氏　※参加費：感謝献金
［問合せ先］TEL 092・541・3730 松山
※典礼聖歌集持参

2024年４月開講　聖書100週間

コロナ禍で、行うことのできなかった聖書100 週間（旧約聖書を 100 週間かけて読んでいきます）を４月から開催いたします。
［　日　］未定
［時　間］金曜日　14 時～16 時
［場　所］福岡カトリック神学院
［内　容］班ごとに分かち合い、後、神父による解説があります。
［指　導］大山　悟　神父（サン・スルピス会）
［問合せ先］TEL 092・871・4943（大山神父）
ご一緒に学び、分かち合いましょう！

ホームレス支援　スープの会

2月から3月の2週目までの毎週金曜日に越冬炊き出し

【調理ボランティア】
14時～　大名町教会１階厨房
【夜回り（配布）ボランティア】
19時　初参加者レクチャー
20時　夜回り準備（袋詰め）
20時半　各コースへ編成決め
21時　各コース夜回り出発
【献品】
冬物の寝袋や防寒着、新品の下着・靴下、大きめのリュックサック、冬服
【問合せ】
深堀 080・1793・0481
飛永 080・4317・4152　前田 090・8412・7803

― 召命を祈る集い ―

福岡地区　２月20日（火）13時30分～ 大名町教会
〔問合先〕☎ 092・921・4532　山口
北九州地区　２月10日（土）14時～ 小倉教会
〔問合先〕☎ 0949・24・9905　藤井
熊本地区　２月19日（月）９時50分～ 手取教会
〔問合先〕☎ 090・4340・1631　堤

― 各種団体の定例会 ―

詳細につきましては、福岡教区ホームページ「教区報２月号」、または右記 QR コードからご確認ください。

福岡教区広報室アドレス
http://fukuoka.catholic.jp
E-mail:cdf-kouhou@nifty.com

案　内　板　会合と催し

教区信徒協主催　講演会
江戸の大殉教から400周年
講師：古巣馨神父（長崎大司教区）

テーマ　「殉教者たちの
　　キリストへの愛の証を学ぶ」
［日　時］２月23日（金・祝）13 時～16 時半
［場　所］カトリック大名町教会 大聖堂
［内　容］講演会　13:00～15:00
　　感謝ミサ　15:30～16:30
　　司式：古巣馨神父
［問合せ先］TEL 080・5270・2657（濱崎）
※詳細は上記 QR コードからご確認ください。

真命山諸宗教対話センター　－祈りの集い－

年間テーマ：真の幸せへの道
日　　時：2月8日（木）10時～15時
内　　容：「神よ…　あなたのほかに、しあわせはない」
指 導 者：S.フランコ神父（聖ザベリオ宣教会）
次　　回：3月14日（木）　10時～15時
内　　容：「心の貧しい人々は、幸いである」
指 導 者：C.クラウディオ神父（聖ザベリオ宣教会）
問合わせ先：真命山諸宗教対話センター
☎0968・85・3100 FAX 0968・85・3186
熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7
E-mail　shinmeizan@gmail.com
☆個人またはグループでの黙想会、研修会も歓迎いたします（要予約）

2月のこよみ

【２月】
２日（金）　主の奉献　世界奉献生活の日
３日（土）　世界奉献生活の日・教区感謝ミサ司式
　　豊津教会司牧訪問
　　福者ユスト高山右近殉教者
４日（日）　年間第５主日　行橋教会司牧訪問
５日（月）　日本26聖人殉教者
６日（火）　司祭評議会
７日（水）　熊本マリスト学園講話（熊本）
８日（木）　レジオ・マリエ黙想会・指導
11日（日）　年間第６主日　世界病者の日　小倉教会司牧訪問
13日（火）　定例司教総会（～16日　東京）
14日（水）　灰の水曜日（大斎・小斎）
　　四旬節愛の献金（四旬節中）
18日（日）　四旬節第１主日　門司教会司牧訪問
　　教区100周年委員会
20日（火）　教区幼児教育連盟
21日（水）　教区セクシャルハラスメント対応委員会
23日（金）　神学院「閉校式」とサン・スルピス司祭会への「感謝式」
　　大名町教会・江戸の大殉教講演会
25日（日）　四旬節第２主日　飯塚教会司牧訪問
27日（火）　宗教法人幼稚園　園長・理事会
■ゴチックは司教日程

2月14日から　四旬節愛の献金

※福岡教区で奉仕された司祭の帰天日は右記ＱＲコード、または教区ホームページのカレンダーでご確認ください。

集いの詳細は、各問合せ先にお尋ねください。

■美野島司牧センター
○ホームレスの方に温かい食事と衣類　毎週火曜日10時
○ホームレス支援炊出し
３月２週目まで大名町教会「スープの会」と協働

○路上からアパートに入居した方を訪問　第３土曜日14時
〔問合せ先〕☎092・431・1419コース・マルセル神父

■聖体といやしの家
ご聖体のある家でミサと礼拝のある今を過ごしてみませんか？必要があればシスターや社会福祉士が同伴できます。
〔問合せ先〕☎080・4735・6971礼拝会

編集後記

今年、仕事始めからしばらくの間、関係各所に連絡を取り合えば、「新年『おめでとう』」という言葉がはばかられます」という挨拶が添えられました。
新しい年を、疑うことなく「おめでとう」と祝っていたムードを一変させ、元日の団らんに衝撃を与えた北陸地方の地震とその甚大な被害。道路の寸断に阻まれ、復興や支援が中々進まない中、被災地の方々の苦難や苦悩を見聞きするにつれ心が痛みます。
過去、自分の誕生日や記念日が、大きな災害や事故・事件と同じ日になった友人や知り合いたちから「何だか複雑」と胸中を明かされるたび、ただ黙って聞いているだけでした。でもそれは「自分だけ喜ぶのが申し訳ない」という気持ちの表れでもあり、キリストの「隣人を自分のように愛しなさい」という言葉と重なって、心の中でその人たちを誇らしく思っていました。
「おめでたい時にも『おめでとう』と言えない人がいる」。こんな簡単なことを、あらためて強く心に刻むために払われた、あまりにも大きな代償…。
被災地の情報収集や発信を行いながら、「もしこれが福岡教区だったら」とも頭に浮かび、学びや気づきをいただいています。「互いに支え合う交わりの教会」であれば、必ず乗り越えられるはずと思いながら。（W）

美野島司牧センターのクリスマス　堺　華蓮

La celebración de la Navidad en el Centro Pastoral de Minoshima fue verdaderamente internacional.
Personas de muchos países diferentes se reunieron y se lo pasaron genial, divirtiéndose y sonriendo. Estaba tan lleno de extranjeros que casi no se apreciaba la presencia de los japoneses.
La misa se celebró en español y japonés. Durante la misa de Navidad todavía recuerdo cómo todos los presentes quedaron sorprendidos y conmovidos por la voz de un cantante mexicano profesional que cantó el Ave María, a modo de ópera, junto al piano. Tuvimos un momento de oración iluminados por la luz de las velas que cada uno sostenía en sus manos. Fue un hermoso momento donde los corazones de todos se volvieron uno. Los niños hicieron todo lo posible por cantar canciones que conocían. Fue una Misa muy especial y conmovedora.

ピニャータをえいやっ！

Después de la misa hubo una fiesta en la que algunas personas tocaron la flauta y cantaron ópera. También había gente bailando las canciones. Al final rompimos la piñata que, en la cultura mexicana, es una costumbre para alegrar a los niños. La piñata tenía forma de árbol de Navidad. Dentro de la piñata hay dulces, pequeños peluches y otras cosas que a los niños les gustan. Los niños la rompen con palos para sacar los dulces de su interior. Éste es un juego infantil tradicional que pueden disfrutar niños y jóvenes.
Nuestro Centro Pastoral Minoshima es un espacio lleno de alegría. Nos encontramos gente de muchos países diferentes. Es verdaderamente internacional. ¡Uno se siente como en casa y toda la gente es cálida! Sabiendo que Jesús siempre nos cuida, nos ayudamos unos a otros, creemos unos en otros, nos apoyamos unos a otros y pasamos nuestros días agradecidos por nuestra vida diaria. Me siento feliz de ser parte de la comunidad católica de Minoshima.

美野島司牧センターのクリスマスは特にインターナショナルでした。多国籍の方々が集まり、明るく楽しく笑顔で過ごしていました。日本人が少なく見えるほど多くの外国人で賑わいました。ミサはスペイン語と日本語でした。ピアノと共にアヴェ・マリアをオペラで歌ったプロのメキシコ人歌手の歌声で、ミサに居た皆さんが驚き感動していたのを今でも覚えています。キャンドルサービスは、皆の心が一体化するような美しい瞬間でした。子どもたちも、知っている歌などを一生懸命に歌い心温まるミサでした。
ミサ後のパーティーでは、フルートを弾いてくれた方やオペラを歌ってくれた方もいました。歌にのって踊っている方々もいました。最後に、子どもたちのためにメキシコの文化であるピニャータをしました。ピニャータはクリスマスツリーの形をしていて、中にお菓子や小さなぬいぐるみなど子どもたちが好きそうな物を入れて、それを子どもたちが棒で叩いて壊し、中のお菓子などを取り出すという伝統行事です。２歳児から 10 歳児くらいまでが楽しめる伝統的な子どもの遊びです。
最後に、私たち美野島司牧センターは常に明るく、多国籍の人たちとも仲良くなりとてもインターナショナルだと思います。アットホームで温かい人たちばかりです！いつもイエス様に見守られながら、助け合い、信じ合い、寄り添って日々の生活に感謝して過ごしています。

私たちと一緒におはなししませんか？
精神的な不安　将来への不安　現状の不安　心の拠り所
10 代～40 代のみなさま
こんな悩みをお持ちでないですか？
相談は無料です。
必要に応じて専門機関の情報提供もいたします。ひとりで悩まずに、お気軽にご相談ください。秘密は厳守します。
安心してお話が出来る人をお探しの方へ。
メール：hanahanahimawari2020@gmail.com
☎：080-4735-6971（9:00－21:00）
※対応できないときもあります。
※ 原則１回 30 分です。
LINE 右記 QR コード
―ぷろじぇくとHana―
ぷろじぇくとHanaは、社会福祉士・看護師・シスターなどが在籍している、礼拝会を中心としたグループです。

福岡教区セクハラ対応窓口

セクハラを受けたら、見かけたら、ご相談ください。ひとりで悩まず、早めに相談
セクシュアル・ハラスメント相談窓口
電話　080-2694-4182
受付時間　月～金（祝日を除く）
10:00 ～ 12:00　13:00 ～ 16:00